

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01836

研究課題名（和文）漂流する信念に心のレジリエンスをもたらす情報の生成・提供技術の実現

研究課題名（英文）Information System for Realizing Resilient Mind from Drifting Belief

研究代表者

大澤 幸生（OHSAWA, YUKIO）

東京大学・大学院工学系研究科（工学部）・教授

研究者番号：20273609

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 25,700,000円

研究成果の概要（和文）：信念の漂流（BF）状態にある人の要求とこれに適合する情報との関係性を求め、心理学的調査に基づき研究方針を改善しつつ、信念漂流状態の人に情報提供を行う方法を研究した。拡張ゴールグラフ（EGG）については、対象ドメインに対する習熟度に応じたデータ選択を支援する効果が見出された。また、信念の漂流（BF）状態の人にとって情報の成分の選択が重要な意味を持つとの知見を得て変数クエスト（VQ）を改良し医療分野等へ実験的に適用した。さらに、系列データからの変化説明技術、必要データの表出化技術、発話データ等からの論理構造可視化技術を創り、信念漂流状態にある人が自ら情報を探索する過程を支援する手法を確立した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会を大きく巻き込むような災害に直面する前後において、人々は平常時なら入らない情報を適切に統合して意思決定を行う必要がある。しかし、信念の漂流（多様な情報の間に整合性がなく、一貫性のある信念に収束することができない）状態におかれた人は適切な意思決定が困難となる。この信念漂流状態から、人を必要な意思決定プロセスに復帰させる、あるいは新たに向かわせることは、生活や業務における計画的行動設計にとって必要な社会的要求である。本研究では、人が信念の漂流を克服する情報の獲得を可能とすることにより、災害によるパニック下でも意思決定力を劣化させず社会の活性を持続させるための基盤情報技術の確立をめざした。

研究成果の概要（英文）：A method of providing information to a person in the state of belief drifting has been studied while improving the research policy based on a psychological survey with seeking the relationship between the demands of the person in the state of belief in the belief (BF) state and information that meets the demand. Regarding the extended goal graph (EGG), the effect of supporting data selection according to the proficiency level for the target domain was found. In addition, we have found that the selection of information components is important for people with drifting belief (BF). Thus, we improved the variable quest (VQ) and applied it experimentally to the medical field. Furthermore, we created a technique to explain changes from sequence data, a technique to externalize necessary data, and a technique to visualize logical structures from utterance data, etc., and finally established a method for aiding the process of searching information by people who are in a state of belief drift.

研究分野：システム創成学、データ市場設計学

キーワード：信念の漂流 意思決定 情報獲得

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した2016年当時、自然災害の被災者たちの心が、不安から絶望に陥ろうとする状態のまま前向きな意思決定に達することができないまま放置されていた。矛盾しあう多様な情報が拡散し、どの情報を信じるべきか不明な局面も多く見られる事態は、常に被災地のみならず社会全体で発生する。社会的要請として、人々が大きなトラブルに直面する前後において、防災・減災・復旧または発展的アクションのために日常は用いない情報を適切に統合して意思決定を行う必要があった。

このような状況下で、何を信じてよいか分からず必要な情報を生かすことができなくなる。この状態を、本研究では信念の漂流と呼ぶことにした。信念が定まらず、次なる行動を迅速に確定する様な意思決定が困難となった信念の漂流状態の人々を生活に必要な意思決定プロセスに復帰させる、あるいは新たな意思決定と行動へと向かわせることは、心のレジリエンス、即ち人の心的状態の復旧あるいは新しい価値観の獲得を支えることにもなる。本研究では、人々が持つ性格による影響とは独立に、前向きな行動計画を立てる様な心的レジリエンスに絞りこみ、これを獲得させる為の情報の生成手法を実現することを狙った。特に問題と考えたのは、多様な情報(専門家のアドバイス、SNSやニュース、各種データを含む)の関係性、一貫性をどのように確保するかであった。

2. 研究の目的

信念の漂流状態におかれた人々に対し、信頼性・有用性・一貫性を備えた情報生成・伝播・受理・活用システム構築の基盤的手法を、必要な分野の研究者に絞った共同研究によって確立することを目指した。本質的には、システム構築は方法であり、人々がこのような情報を後戻りなく効率的に獲得することが目的であった。したがって、人々に直接情報そのものを提供することに拘るのではなく、情報収集を行う指針を与える技術を生み出すことも視野に入れて推進した。結果から言えば、このように視野を広げた目標の持ち方が研究成果につながった。人々にシステムが情報を提供するだけでなく、何について情報を得るべきかを人に気づかせ絞ってゆく過程を提供することこそが本質的であることが明らかとなったため、必要な情報(データ)の成分すなわち変数やその間の関係性を示し、自身の要求を真に満たす情報収集を行うシステムを実現し公開する指針の建設的転換へと進んでいった。

3. 研究の方法

信念の漂流からの脱却に資する情報の全体像についての検討、論理的な議論に基づく情報・データの選択と連結、フィールド試験による有効性確認と社会還元という、3フェーズで推進した。データはそもそも存在しないケースが多いことから、データを生み出すきっかけづくりを含めて方法を構築する拡張も取り入れることになった。

上記では科学的データを結合する問題解決技法(Innovators Marketplace on Data Jackets: IMDJ)ワークショップ手法に加え、SNS等のメッセージから注目すべき発言を捉え、発言の支持・否定を論理的に説明する拡張ゴールグラフ(Extended Goal Graph: EGG)を生成する技術を実現してゆく計画に従ってプロジェクト初期を進めた。では生成されたEGGを改良し、人が意思決定を進められない状態に陥ったとき、その力を強くする情報を明らかにする問題に絞りこんで進めた。以下は研究時期を追って研究方法を示す。

初期(平成28~29年度までを中心とする): IMDJを中心とした要求構造の概要把握

IMDJとは、データの所有者、分析者、分析結果の利用者が会し、データの結合と再利用のシナリオを提案・評価し合うワークショップである。IMDJには本研究の代表者と分担者およびそれらのメンバーが集められる一般市民、東日本大震災等の被災に近い医療者等が参加し、災害前後における人々の不安の背景にある状況や要求(左記)の要求に適合する情報や提案(これらと科学的データとの関係性を、網羅的に検討し、要求・提案・データの関係の概要を把握する手法をとった。

中期(平成29~平成30年度までを中心とする)発言の支持・否定を論理的に説明する拡張EGGを改良することによって、要求から必要なデータに至る情報構造の掘り起こしを目指した。EGGは要求を満足する論理的説明を示す手法として研究分担者の久代らが要求分析の研究から編み出した手法で、上端に真偽を知りたい発言を説明(支持又は否定)する情報を、下端に事実即ちデータを持ち、上端から下方に向けて構成してゆく過程を実現するように改良した。まず信念が漂流する人々の発言の主たる関心事や悩みを言語化するため、楽天知恵袋などの質疑データを人の悩みや抱える問題を表す発言セットとして用い、大澤独自の変化説明技術(Discovery without Learning: DwL)によって重要な転換点を抽出し、日常生活の視点から感じる問題点を把握できるようにした。問題点把握の別手法として、Web上で公開されたテキストに論理的解釈の手掛かりとなるアノテーションを付し、心理的レジリエンスの多角的な測定尺度を表出化する手法も開発した。

しかし、新しいEGGシステムだけでは上下の階層性と左右の探索幅の双方をユーザが検討する複雑な操作を巻き込むため、最終成果物としての公開成果物としては別の方法を検討することにした。もっと単純なツールによってユーザが自ら論理構造を検討し、強い必要性に駆られた場合に改良型EGGを用いるという手順を目指すことにした。

一方、29年度には不安等に関する心理学由来の因子とBFを評価する指標の相関が、意思決定および行動に直接的に関係する部分を除いて弱いことが明らかとなったことから、不安の抑制ではなく問題解決という視点にフォーカスして信念の漂流を抑制する情報の獲得手法の開発を進める方針を固めた。さらに、原発事故後の福島県内の放射線問題に関して乳幼児をもつ保護者の放射線不安の変化の同定と、放射線相談外来時になされる受け答えの分類調査からも、人々が実生活において獲得すべき物資については情報を得て、行動に至る意思決定を得ようとしていることが示唆された。

後期（平成30～31年度）上記の方針転換により、要求からデータに至る論理構造と必要な情報探索を参加者自身ができるような全体設計へと方針を転換した。この方針に従って、ドメイン知識に依存して行動の評価指標と有用な情報の性質をユーザに気づかせるため、データ属性（変数）への気づきを支援する技術の開発という最終方針をとった。すなわち、意思決定のための検討プロセス（行動計画の設計・再設計）に関わる整合性のある情報を意思決定すべき主体が自ら獲得するプロセスを支援するシステムの構築にフォーカスを絞った。

4. 研究成果

調査研究による研究指針の確立： 平野（研究分担者）は、信念の漂流状態の測定方法の検討にむけて、心理的レジリエンスをどのように理解し表現するかについての理解を深め、質問紙法以外の手法によるレジリエンス測定方法の検討を行った。この結果、信念の漂流が特性ではなく状態として測定できることが示唆された。しかし、状態不安との関連については、当該の迷いごと以外の要因が大きく影響していることが推測される結果となった。病気の診断を受けた際の情報収集という文脈における信念の漂流状態の特徴としては、不安との関連性においては弱い正の関連をもつなどが把握されるにとどまった[HR-1,2]。

一方、坪倉（研究分担者）は福島第一原発事故で大きな影響を受けた福島県浜通り地域での住民の被ばく状況と、不安の程度の変化を明らかにするための調査研究を行った。乳児・幼児の内部被ばくレベルを正確に測定できるホールボディーカウンター（BABYSCAN）を用いて、乳幼児の包括的な内部被ばく検査を行い、医師が保護者に結果を個別に説明し、日常生活における放射線に関する懸念について話し合うことができる時間を設けた。BABYSCANによるスクリーニングとカウンセリングは、不安の強い住民グループに対して、効率的に放射線情報とカウンセリングを継続的に提供する有用な可能性がある。保護者と医師が直接議論することで、幅広い懸念に詳細な回答を提供することができた[TB-1]。また、放射線量は徐々に低減しているにもかかわらず放射線不安をかかえる住民は残り、放射線そのものよりも食品・水など、生活における意思決定に関する質問が多かった[TB-2,3]。

瀧田（研究分担者）は高齢者医療における心肺蘇生拒否について看護師を対象とした意識調査研究[TK-1]やOECD各国の感染症ワクチン忌避を解析した研究[TK-2]で、本研究を通じて得られた情報提供に関する知見を用いた。例えば、看護師は、医学的知識を有する医師と専門的情報の少ない患者間との「情報伝達」の橋渡し役であるが、医師と患者・家族のインフォームド・コンセントの前に「患者状態の変化」なる成分に関連する情報によって医療・看護処置を変えうる可能性を示した。信念の漂流状態におかれている患者への情報提供にとって、情報の成分すなわち変数の選択が重要となることを検証する結果である。

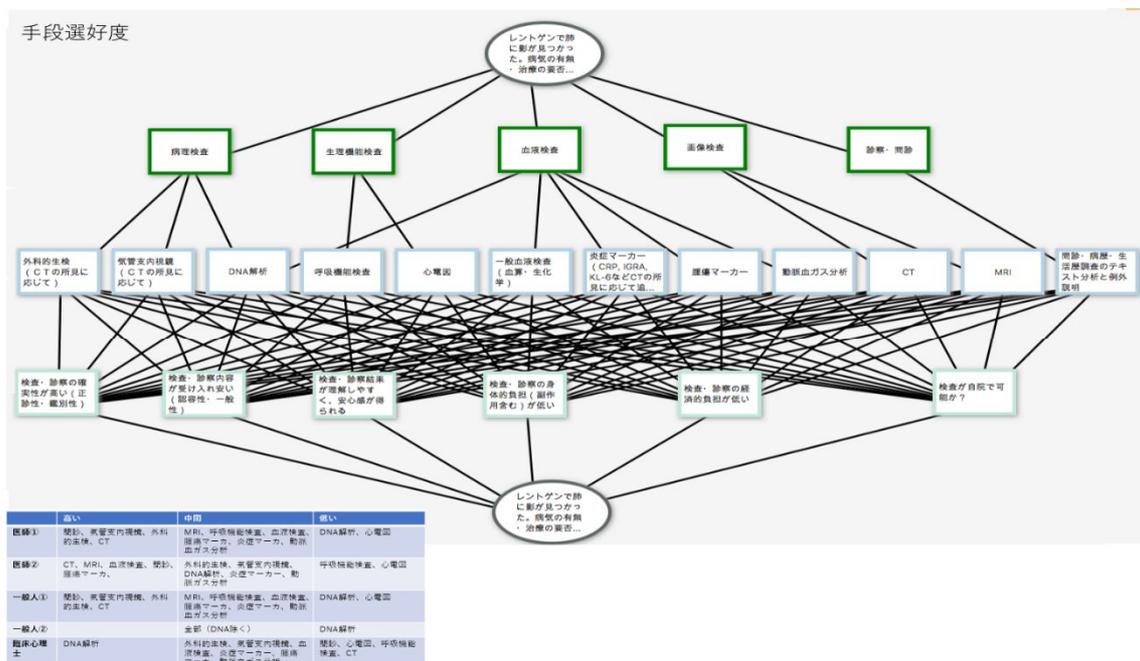


図1 改良したEGGの適用例：各参加者が重視するデータ項目とその違いが判る

データに基づいて信念漂流の抑制を支援する技術の開発： 発言の支持・否定を論理的に説明する EGG メソッドを、上端（社会的要求）から下端（支持データ）に向けて拡張し、データの選択と連結の効率化を行う技術へと拡張した（図1）。この新しい EGG を用いてワークショップを実施し、ステークホルダ間の評価基準（価値観）がどのように異なり、これらの差異を解消にはどのようなデータの提供が有効かを抽出した。EGG についてはユーザの修練も必要であるが、対象ドメインに対する習熟度に応じたデータ選択を支援する効果が実験的に検出された。

早矢仕と大澤は、ユーザが必要とする情報（データ）の成分を把握させる機能を有する、以下の2ツールを発展・開発した。単独でも、EGG 等と連結しても用いることができる。

変化説明手法：人の悩みに結びつきがちな社会的変化の説明を得る技術（[OH-3,7]）

変数クエスト（Variable Quest：VQ）のネットワーク化：VQ はユーザが抱える問題を入力すると関連するデータ成分を計算して表示するが、本研究ではそのネットワーク型の可視化機能を開発することによって、変数の集合に着目して必要なデータの性質の全体像を把握して収集することを可能とした（文献[OH-3,6,8]、図2）。信念の漂流に拡張した VQ を医療等の信漂流領域に適用し結果を実験的に評価した。

Treasuring Every Encounter of Data Affairs（TEEDA）は、データ市場の参加者が、提供したいデータと提供を受けたいデータを交互に出し合い、全体としてデータのネットワークを形成してゆく。いずれおいても、IMDJ を組み合わせることによって変数（データ成分）を掘り起こし、どの変数について情報を持てばよいかという探索空間を獲得することができる（文献[OH-1]）。

TEEDA[OH-1]、Web 版 IMDJ（初年度に実施したワークショップを遠隔可能とした[OH-2]）、VQ[OH-8]のツールは公開している。また久代は以下の2ツールを開発した。

インタラクションデータの形式記述化ツール（Semi_formalizer）：発話データ・テキスト（自然言語）データを形式記述に変換し、命題間の論理関係（And,Or,Imply 等）を同定
 テキストデータの論理構造を可視化するツール（Propositional_Network_Tool）：形式記述された発話・テキストデータの論理構造を可視化（[KS-1,2,3]）

この と は EGG を補強するもので、ユーザ群に対して論理的に整合性のあるデータを提供するため、発話データなどを形式記述変換し論理構造の可視化を行うツールである。例えば、店舗販売員のトレーニングにおけるトレーナー・トレーニー間のインタラクションを分析し、トレーニングの実効が得られるデータ提示パターンを抽出した（[KS-4]）。

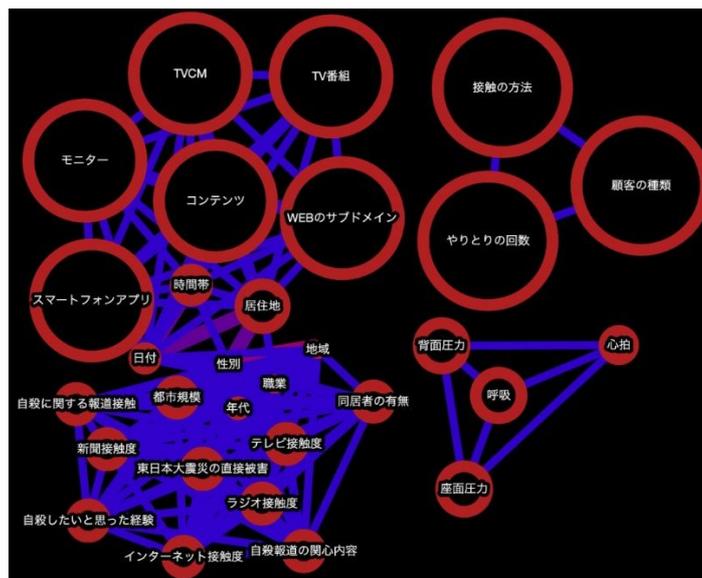


図2 「感染が怖い」に対するネットワーク化 Variable Quest の結果

2020 年、訪れたのはコロナウィルスの蔓延であった。そして、多様な専門家や行政の指導の間の情報の不整合により意思決定ができなくなった人々は根拠なく「新規感染者数は何人なのか」を追い、いら立つ日々を送っている。これに対し、「感染が怖い」という一般の人々の悩みを入力し Variable Quest の結果を得た。大澤はこの結果から、catch（ウィルスを受け取る）、infection（感染する）、transmission（他者に感染）という、従来モデルと異なる3状態をノードとエッジとして拡張型制約付きスケールフリーネットワーク（SFN）による COVID-19 感染モデルを開発した。その結果、集団（都市）の規模、やりとりの相手の数タイミング（時間帯、日付）などの変数群を反映して制約緩和のタイミング、第二波の可能性についてシミュレーションを行い発信したところ一般の国民の具体的意思決定に結びつき、論文以外のメディア（朝日新聞論座、日経新聞、NHK の順で取材）から注目を浴びている。

引用文献

- [OH-1] Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa, "TEEDA: An Interactive Platform for Matching Data Providers and Users in the Data Marketplace," *Information*, Vol. 11, No. 4, 218. DOI: <https://doi.org/10.3390/info11040218>
- [OH-2] Iwasa, D., Hayashi, T., Ohsawa, Y., "Development and Evaluation of a New Platform for Accelerating Cross-Domain Data Exchange and Cooperation," *New Generation Computing*, 2019. DOI: <https://doi.org/10.1007/s00354-019-00080-0>
- [OH-3] Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa, Matrix-based Method for Inferring Elements in Data Attributes Using Vector Space Model, *Information*, 10(3), 107, 12 pages, (2019) DOI: 10.3390/info10030107
- [OH-4] Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi, Takaaki Yoshino., Tangled String for Multi-timescale Explanation of Changes in Stock Market, *Information* 2019, 10(3), 118, 21 pages DOI: 10.3390/info10030118
- [OH-5] Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa, How to Understand Belief Drift? Externalization of Variables Considering Different Background Knowledge, *Advances in Human-Computer Interaction* Vol. 2018, Article ID 9054685, pp.1-12, 2018 DOI: 10.1155/2018/9054685
- [OH-6] Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa, Inferring Variable Labels Using Outlines of Data in Data Jackets by Considering Similarity and Co-occurrence, *International Journal of Data Science and Analytics*, Volume 6, Issue 4, pp 351–361, 2018. DOI: 10.1007/s41060-018-0152-8
- [OH-7] Yukio Ohsawa, Graph-based Entropy for Detecting Explanatory Signs of Changes in Market, *The Review of Socionetwork Strategies*, *The Review of Socionetwork Strategies*, online (2018, DOI:10.1007/s12626-018-0023-8
- [OH-8] Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa, "VARIABLE QUEST: Network Visualization of Variable Labels Unifying Co-occurrence Graphs," In Proc. IEEE-ICDM Workshops 2017, Creating Tools, Data, and Sensors from the Social Intelligence (MoDAT), pp.577-583, Nov. 2017. 10.1109/ICDMW.2017.81
- [HR-1] 平野真理・坪倉正治・瀧田盛仁・早矢仕晃章・久代紀之・大澤幸生 (2018). 信念の漂流尺度作成の試み 日本心理学会第 82 回大会発表論文集、 710.
- [HR-2] Hirano, M. (in print). Chapter 12: Individual Differences in Psychological Resilience. in Nara, Y. & Inamura, T. (Eds) *Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future*. Springer.
- [KS-1] 青山裕介、黒岩丈瑠、久代紀之：テストケース生成のためのシステム仕様書の論理記述変換アルゴリズム、*情報処理学会論文誌*、Vol.61、No.3、pp.521—534、2020年3月15日、(ISSN1882-7764)
- [KS-2] Noriyuki Kushiro, Koshiro Nishinaga, Yusuke Aoyama, Toshihiro Mega: Difference of Risk Knowledge described in work procedure manual and that used in real field by field overseers, *Procedia Computer Science*, Vol.159, pp.1928—1937, 2019, doi: 10.1016/j.procs.2019.09.365
- [KS-3]久代紀之、妻鹿利宏、西永航志郎、青山裕介：リスク制御のための現場知識—工事現場監督の視線と発話解析によるメタ・ドメイン知識の抽出、*情報処理学会研究報告*、Vol.2020-ICS-199 No.1、pp.1—7、2020年3月、ISSN：2188-885X
- [KS-4]久代紀之、益井彩貴、青山裕介：利用者に心のレジリエンスをもたらす情報提示手順～説得力のあるQ&Aシステム実現を目指すシステム設計手法～、*電子情報通信学会技術研究報告*、Vol.119、No.478、WIT2019-56、pp.97—102、2020年3月、ISSN 0913-5685
- [TB-1] Usefulness of the whole-body counter for infants and small children (BABYSCAN) as a risk communication tool after the Fukushima Daiichi nuclear power plant incident. Tsubokura M, Nabeshima Y, Murakami M, Nemoto T, Kambe T, Nonaka S, Shimada Y, Kobashi Y, Ozaki A, Oikawa T. *Proc Jpn Acad Ser B Phys Biol Sci*. 2020;96(2):70-78. doi: 10.2183/pjab.96.006. PMID: 32037370 Free PMC article.
- [TB-2] Internal exposure risk due to radiocesium and the consuming behaviour of local foodstuffs among pregnant women in Minamisoma City near the Fukushima nuclear power plant: a retrospective observational study. Yamamoto K, Nomura S, Tsubokura M, Murakami M, Ozaki A, Leppold C, Sawano T, Takita M, Kato S, Kanazawa Y, Anbe H. *BMJ Open*. 2019 Jul 9;9(7):e023654. doi: 10.1136/bmjopen-2018-023654. PMID: 31289047
- [TB-3] Impact of decontamination on individual radiation doses from external exposure among residents of Minamisoma City after the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant incident in Japan: a retrospective observational study. Tsubokura M, Murakami M, Takebayashi Y, Nomura S, Ono K, Ozaki A, Sawano T, Kobashi Y, Oikawa T. *J Radiol Prot*. 2019 Sep;39(3):854-871. doi: 10.1088/1361-6498/ab280e. Epub 2019 Jun 10. PMID: 31181542
- [TK-1] Higuchi A, Takita M, Yoshii A, Akiyama T, Nemoto T, Nakahira R, Nakajima T, Fukahori H, Tsubokura M, Igarashi R. Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study. *Tohoku J Exp Med*. 2020;250(1):71-78. doi: 10.1620/tjem.250.71
- [TK-2] Miyachi T, Takita M, Senoo Y, Yamamoto K. Lower trust in national government links to no history of vaccination. *Lancet*. 2020;395(10217):31-32. doi: 10.1016/S0140-6736(19)32686-8

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計87件（うち査読付論文 81件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 56件）

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 8
2. 論文標題 Understanding the Structural Characteristics of Data Platforms Using Metadata and a Network Approach	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IEEE Access	6. 最初と最後の頁 35469-35481
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1109/ACCESS.2020.2975064	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Danilo Eidy Miura, Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi	4. 巻 1128
2. 論文標題 Variables Extraction in Natural (English) Language Through Possessive Relationships	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Advances in Artificial Intelligence. JSAI 2019. Advances in Intelligent Systems and Computing	6. 最初と最後の頁 162-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-39878-1_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Zexuan Wang, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 1128
2. 論文標題 A Community Sensing Approach for User Identity Linkage	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Advances in Artificial Intelligence. JSAI 2019. Advances in Intelligent Systems and Computing	6. 最初と最後の頁 191-202
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/978-3-030-39878-1_18	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Daiji Iwasa, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 38
2. 論文標題 Development and Evaluation of a New Platform for Accelerating Cross-Domain Data Exchange and Cooperation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New Generation Computing	6. 最初と最後の頁 65-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00354-019-00080-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 10
2. 論文標題 Matrix-based Method for Inferring Elements in Data Attributes Using Vector Space Model	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Information	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/info10030107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi, Takaaki Yoshino	4. 巻 10
2. 論文標題 Tangled String for Multi-timescale Explanation of Changes in Stock Market	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Information	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/info10030118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 0
2. 論文標題 Context-based Network Analysis of Structured Knowledge for Data Utilization	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 AAAI Spring symposium 2019 Interpretable AI for Well-being: Understanding Cognitive Bias and Social Embeddedness	6. 最初と最後の頁 0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Masahiro Senda, Daiji Iwasa, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 0
2. 論文標題 Data Classification by Reducing Bias of Domain-oriented Knowledge Based on Data Jackets	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 6th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks (SPIN2019)	6. 最初と最後の頁 404-407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/SPIN.2019.8711715	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山裕介、黒岩丈瑠、久代紀之	4. 巻 61
2. 論文標題 テストケース生成のためのシステム仕様書の論理記述変換アルゴリズム	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 情報処理学会論文誌	6. 最初と最後の頁 521-534
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) (ISSN1882-7764)	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Koshiro Nishinaga, Yusuke Aoyama, Toshihiro Mega	4. 巻 159
2. 論文標題 Difference of Risk Knowledge described in work procedure manual and that used in real field by field overseers	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Procedia Computer Science	6. 最初と最後の頁 1928-1937
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2019.09.365	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murakami M, Takebayashi Y, Tsubokura M	4. 巻 247
2. 論文標題 Lower Psychological Distress Levels among Returnees Compared with Evacuees after the Fukushima Nuclear Accident	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Tohoku Journal of Experimental Medicine	6. 最初と最後の頁 13-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.247.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishikawa Y, Tsubokura M, Ozaki A, Morita T, Sawano T	4. 巻 9
2. 論文標題 Change of access to emergency care in a repopulated village after the 2011 Fukushima nuclear disaster: a retrospective observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e023836
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-023836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawano T, Tsubokura M, Ozaki A	4. 巻 112
2. 論文標題 Combating 'fake news' and social stigma after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant incident-the importance of accurate longitudinal clinical data	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 QJM	6. 最初と最後の頁 479-481
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/qjmed/hcz049	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sonoda Y, Ozaki A, Higuchi A, Shimada Y, Yamamoto K, Morita T, Sawano T, Leppold C, Tsubokura M	4. 巻 2019
2. 論文標題 Premature Death of a Schizophrenic Patient due to Evacuation after a Nuclear Disaster in Fukushima	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Case Rep Psychiatry	6. 最初と最後の頁 3284153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2019/3284153.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 39
2. 論文標題 Low dose from external radiation among returning residents to the former evacuation zone in Minamisoma City, Fukushima Prefecture	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Radiol Prot	6. 最初と最後の頁 548-563
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1361-6498/ab0f87	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishikawa Y, Ozaki A, Tsubokura M	4. 巻 13
2. 論文標題 Successful Renovation of a Closed School Into a Long-Term Care Facility in the Affected Area After the 2011 Fukushima Disaster	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Disaster Med Public Health Prep	6. 最初と最後の頁 107-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2018.107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishikawa Y, Tsubokura M	4. 巻 104
2. 論文標題 Stable Iodine Distribution Among Children After the 2011 Fukushima Nuclear Disaster in Japan: An Observational Study.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Clin Endocrinol Metab.	6. 最初と最後の頁 1658-1666
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1210/jc.2018-02136.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozak A, Tsubokura M	4. 巻 113
2. 論文標題 Lessons learned from Fukushima, Japan: In what ways can the social sciences help to mitigate some of the health impacts of disaster?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 QJM	6. 最初と最後の頁 237-238
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/qjmed/hcz165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaki A, Higuchi A, Sawano T, Tsuda K, Leppold C, Tsubokura M Tanimoto T	4. 巻 9
2. 論文標題 Long-term trends of hospital admissions among patients with cancer following the 2015 earthquake: a single institution observational study in Kathmandu, Nepal	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e026746.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-026746	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 248
2. 論文標題 Worsening Health Status among Evacuees: Analysis of Medical Expenditures after the 2011 Great East Japan Earthquake and Nuclear Disaster in Fukushima	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 115-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.248.115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaki A, Leppold C, Tsubokura M, Sawano T, Morita T, Tanimoto T	4. 巻 0
2. 論文標題 Breast cancer provider interval length in Fukushima, Japan, following the 2011 triple disaster: a long-term retrospective study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Clinical Breast Cancer	6. 最初と最後の頁 1526-8209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.clbc.2019.07.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yamamoto K, Tsubokura M, Ozaki A, Leppold C	4. 巻 9
2. 論文標題 Internal exposure risk due to radiocesium and the consuming behaviour of local foodstuffs among pregnant women in Minamisoma City near the Fukushima nuclear power plant: a retrospective observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e023654.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2018-023654	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawano T, Takita K, Senoo Y, Nishikawa Y, Tsubokura M	4. 巻 0
2. 論文標題 The responsibility of the Japanese Media, The Fukushima accident & the use of personal data for research	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 QJM	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/qjmed/hcz193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 16
2. 論文標題 Living in the Restoration Public Housing after the Great East Japan Earthquake Correlates with Lower Subjective Well-Being of Older Adults	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 2696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph16152696	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawano T, Nishikawa Y, Ozaki A, Leppold C, Takiguchi M, Saito H, Shimada Y, Morita T, Tsukada M, Ohira H, Tsubokura M	4. 巻 98
2. 論文標題 Premature death associated with long-term evacuation among a vulnerable population after the Fukushima nuclear disaster: A case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore)	6. 最初と最後の頁 e16162.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/md.00000000000016162	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M, Ozaki A, Sawano T, Kobashi Y	4. 巻 39
2. 論文標題 Impact of decontamination on individual radiation doses from external exposure among residents of Minamisoma City after the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant incident in Japan: a retrospective observational study	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Radiol Prot	6. 最初と最後の頁 854-871
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1361-6498/ab280e	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M, Yamamoto K	4. 巻 39
2. 論文標題 Radiation doses and decontamination effects in Minamisoma city: airborne and individual monitoring after the Fukushima nuclear accident	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Radiol Prot	6. 最初と最後の頁 27-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1361-6498/ab4e5a	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 54
2. 論文標題 The role of radiological protection experts in stakeholder involvement in the recovery phase of post-nuclear accident situations: Some lessons from the Fukushima-Da?chi NPP accident	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 EDP Sciences	6. 最初と最後の頁 259-270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1051/radiopro/2019038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 366
2. 論文標題 Radiation is not a political tool	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Science	6. 最初と最後の頁 581-582
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1126/science.aaz3408	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobashi Y, Sawano T, Kami M, Tsubokura M	4. 巻 61
2. 論文標題 Unambiguous evidence is required to accurately understand the health impacts of nuclear accidents	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Radiat Res	6. 最初と最後の頁 90-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rrz069	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirohara M, Ozak A, Tsubokura M	4. 巻 19
2. 論文標題 Determinants and supporting factors for rebuilding nursing workforce in a post-disaster setting.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMC Health Serv Res	6. 最初と最後の頁 917
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12913-019-4765-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawano T, Seno Y, Nishikawa Y, Ozaki A, Shimada Y, Morita T, Saito H, Tsubokura M	4. 巻 98
2. 論文標題 High internal radiation exposure associated with low socio-economic status six years after the Fukushima nuclear disaster: A case report	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore)	6. 最初と最後の頁 e17989
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/md.0000000000017989	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sawano, Tsubokura M	4. 巻 40
2. 論文標題 Low dose of external exposure among returnees to former evacuation areas: a cross-sectional all-municipality joint study following the 2011 Fukushima Daiichi nuclear power plant incident	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 J Radiol Prot	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1361-6498/ab49ba	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 12
2. 論文標題 Efficacy of prolonged exposure therapy for a patient with late-onset PTSD affected by evacuation due to the Fukushima nuclear power plant accident.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 BMJ Case Rep	6. 最初と最後の頁 31888897
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bcr-2019-231960	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M	4. 巻 5
2. 論文標題 Measurements of radiocesium in animals, plants and fungi in Svalbard after the Fukushima Daiichi nuclear power plant disaster	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Heliyon	6. 最初と最後の頁 e03051,
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.heliyon.2019.e03051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi A, Takita M, Yoshii A, Akiyama T, Nemoto T, Nakahira R, Nakajima T, Fukahori H, Tsubokura M, Igarashi R.	4. 巻 250
2. 論文標題 Absence of Relatives Impairs the Approach of Nurses to Cardiopulmonary Resuscitation in Non-Cancer Elderly Patients without a Do-Not-Attempt-Resuscitation Order: A Vignette-Based Questionnaire Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Tohoku J Exp Med	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1620/tjem.250.71	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyachi T, Takita M, Senoo Y, Yamamoto K	4. 巻 395
2. 論文標題 Lower trust in national government links to no history of vaccination	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Lancet	6. 最初と最後の頁 31-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/S0140-6736(19)32686-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Ohsawa	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 Graph-based Entropy for Detecting Explanatory Signs of Changes in Market, The Review of Socionetwork Strategies,	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Review of Socionetwork Strategies, online	6. 最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12626-018-0023-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 早矢仕晃章, 岩永宇央, 岩佐太路, 大澤幸生	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 データジャケットを用いた異分野連携に資するデータの特徴とネットワーク分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 知能と情報	6. 最初と最後の頁 534-545
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3156/jsoft.31.1_534	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ikegami, K., Ohsawa, Y.	4. 巻 159
2. 論文標題 PageRank Topic Model: Estimation of Multinomial Distributions using Network Structure Analysis Methods	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Fundamenta Informaticae	6. 最初と最後の頁 257-277
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/FI-2018-166	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 33
2. 論文標題 異分野データ連携におけるデータ市場とデザイン-オーガナイズドセッションから見る基礎と実践-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人工知能学会誌	6. 最初と最後の頁 836-842
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) Permalink : http://id.nii.ac.jp/1004/00009441/	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 6
2. 論文標題 Inferring Variable Labels Using Outlines of Data in Data Jackets by Considering Similarity and Co-occurrence	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Data Science and Analytics	6. 最初と最後の頁 351-361
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s41060-018-0152-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 Article ID 9054685
2. 論文標題 How to Understand Belief Drift? Externalization of Variables Considering Different Background Knowledge	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Advances in Human-Computer Interaction	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2018/9054685	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 126
2. 論文標題 The Difference between Variable-based and Context-based Networks of Data Using Data Jackets	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 22nd International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2018)	6. 最初と最後の頁 1740-1747
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2018.08.103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 3(118)
2. 論文標題 Matrix-based Method for Inferring Elements in Data Attributes Using Vector Space Model	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Information	6. 最初と最後の頁 118-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/info10030107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野真理・梅原沙衣加	4. 巻 58
2. 論文標題 レジリエンスの資質的・獲得的側面の理解にむけた系統的レビュー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京家政大学研究紀要人文社会科学	6. 最初と最後の頁 61-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masafumi Ifuku, Noriyuki Kushiro and Yusuke Aoyama	4. 巻 1
2. 論文標題 Requirements Definition with Extended Goal Graph	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 2018 IEEE International Conference on Data Mining Workshops (ICDMW)	6. 最初と最後の頁 210-218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/ICDMW.2018.00039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Yusuke Aoyama, Yuji Fujita	4. 巻 126
2. 論文標題 Tool for Extracting Latent Field Overseers' Knowledge for Risk Recognition on Eyes and Algorithm for Structuring Meta and Domain Knowledge from Utterances	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Procedia Computer Science	6. 最初と最後の頁 2003-2012
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2018.07.252	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishikawa Y, Ozawa Y, Tsubokura M, Ozaki A, Sawano T, Morita T, Yoshida N, Fujii F.	4. 巻 7
2. 論文標題 Long-term vulnerability of access to hemodialysis facilities in repopulated areas after the Fukushima Nuclear Disaster: a case report.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oxf. Med. Case Reports.	6. 最初と最後の頁 omy040
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/omcr/omy040	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M, Kitamura Y, Yoshida M.	4. 巻 59
2. 論文標題 Post-Fukushima radiation education for Japanese high school students in affected areas and its positive effects on their radiation literacy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Radiation Research	6. 最初と最後の頁 ii65-ii74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/jrr/rry010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura M, Nomura S, Yoshida I, Sawano T, Miyazaki M, Tomita S, Tomoyoshi O, Watanabe M.	4. 巻 38
2. 論文標題 Comparison of external doses between radio-contaminated areas and areas with high natural terrestrial background using the individual dosimeter 'D-shuttle' 75 months after the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 J Radiol Prot.	6. 最初と最後の頁 273-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/1361-6498/aaa147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ozaki A, Tsubokura M.	4. 巻 100
2. 論文標題 Radiation oncology and related oncology fields in the face of the 2011 triple disaster in Fukushima, Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Int J Radiat Oncol Biol Phys	6. 最初と最後の頁 845-848
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijrobp.2017.12.285	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Morita T, Nomura S, Furutani T, Leppold C, Tsubokura M, Ozaki A, Ochi S, Kami M, Kato S, Oikawa T.	4. 巻 13
2. 論文標題 Demographic transition and factors associated with remaining in place after the 2011 Fukushima nuclear disaster and related evacuation orders	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One.	6. 最初と最後の頁 e0194134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0194134	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsubokura, M.	4. 巻 267
2. 論文標題 Secondary health issues associated with the Fukushima Daiichi nuclear accident	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of the National Institute of Public Health	6. 最初と最後の頁 71-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20683/jniph.67.1_71	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daiji Iwasa, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 1
2. 論文標題 Web-based Innovators Marketplace on Data Jackets as Communication Support System	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Proc. 5th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks (SPIN2018)	6. 最初と最後の頁 280-285
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/SPIN.2018.8474034	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 1
2. 論文標題 VARIABLE QUEST: Network Visualization of Variable Labels Unifying Co-occurrence Graphs	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proc. 2017 IEEE International Conference on Data Mining Workshops (ICDMW)	6. 最初と最後の頁 577-583
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/ICDMW.2017.81	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 112
2. 論文標題 Preliminary Case Study on Value Determination of Datasets and Cross-disciplinary Data Collaboration Using Data Jackets	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 21st International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2017)	6. 最初と最後の頁 2175-2184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2017.08.254	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 10235
2. 論文標題 Matrix-based Method for Inferring Variable Labels Using Outlines of Data in Data Jackets	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Advances in Knowledge Discovery and Data Mining. PAKDD 2017. Lecture Notes in Computer Science	6. 最初と最後の頁 696-707
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-57529-2_54	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi, Hiroyuki Kido	4. 巻 1
2. 論文標題 Restructuring Incomplete Models in Innovators Marketplace on Data Jackets	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Springer Handbook of Model-Based Science	6. 最初と最後の頁 1015-1031
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-30526-4_48	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Yuji Fujita and Yusuke Aoyama	4. 巻 1
2. 論文標題 Extracting Field Oversees' Features in Risk Recognition from Data of Eyes and Utterances	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 2017 IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW)	6. 最初と最後の頁 590-596
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/ICDMW.2017.83	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Yusuke Oniduka and Yoichi Sakurai" a	4. 巻 112
2. 論文標題 Initial Practice of Telematics-Based Prognostics for Commercial Vehicles Analysis Tool for Building Faults Progress Model for Trucks on Telematics Data	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Procedia Computer Science Volume	6. 最初と最後の頁 2155-2164
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2017.08.244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平野真理	4. 巻 17
2. 論文標題 資質を涵養する パーソナリティ心理学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 669-672
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nomura S, Tsubokura M, Murakami M, Ono K, Nishikawa Y, Oikawa T	4. 巻 14
2. 論文標題 Towards a Long-Term Strategy for Voluntary-Based Internal Radiation Contamination Monitoring: Representativeness of the Monitoring Results in Fukushima, Japan.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 E656
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph14060656	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nomura S, Tsubokura M, Ozaki A, Murakami M, Hodgson S, Blangiardo M, Nishikawa Y, Morita T, Oikawa T.	4. 巻 14(4)
2. 論文標題 Towards a Long-Term Strategy for Voluntary-Based Internal Radiation Contamination Monitoring: A Population-Level Analysis of Monitoring Prevalence and Factors Associated with Monitoring Participation Behavior in Fukushima, Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 397-414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph14040397	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozaki A, Yokota T, Nomura S, Tsubokura M, Leppold C, Tanimoto T, Miura T, Yamamoto K, Sawano T, Tsukada M, Kami M, Kanazawa Y, Ohira H.	4. 巻 11(5)
2. 論文標題 Decontamination Work and the Long-term Increase in Hospital Visits for Hymenoptera Stings Following the Fukushima Nuclear Disaster	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Disaster Med Public Health Prep	6. 最初と最後の頁 545-551
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/dmp.2016.194	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita T, Nomura S, Tsubokura M, Leppold C, Gilmour S, Ochi S, Ozaki A, Shimada Y, Yamamoto K, Inoue M, Kato S, Shibuya K, Kami M.	4. 巻 71(10)
2. 論文標題 Excess mortality due to indirect health effects of the 2011 triple disaster in Fukushima, Japan: a retrospective observational study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Epidemiol Community Health	6. 最初と最後の頁 974-980
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jech-2016-208652	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozaki A, Nomura S, Leppold C, Tsubokura M, Tanimoto T, Yokota T, Saji S, Sawano T, Tsukada M, Morita T, Ochi S, Kato S, Kami M, Nemoto T, Kanazawa Y, Ohira H	4. 巻 17(1)
2. 論文標題 Breast cancer patient delay in Fukushima, Japan following the 2011 triple disaster: a long-term retrospective study. BMC Cancer	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Cancer.	6. 最初と最後の頁 423-435
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12885-017-3412-4	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Leppold C, Nomura S, Sawano T, Ozaki A, Tsubokura M, Hill S, Kanazawa Y, Anbe H.	4. 巻 14(5)
2. 論文標題 Birth Outcomes after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Disaster: A Long-Term Retrospective Study	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health.	6. 最初と最後の頁 524-537
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph14050542	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ozaki A, Leppold C, Sawano T, Tsubokura M, Tsukada M, Tanimoto T, Kami M, Ohira H.	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 Social isolation and cancer management - advanced rectal cancer with patient delay following the 2011 triple disaster in Fukushima, Japan: a case report.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Med Case Rep	6. 最初と最後の頁 138-143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13256-017-1306-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Rui Yang and Yukio Ohsawa	4. 巻 -
2. 論文標題 Visualization Method Based o Contour Map	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proc. IEEE IEEE International Conference on Data Mining Workshops	6. 最初と最後の頁 826-830
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1109/ICDMW.2016.0122	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi	4. 巻 10
2. 論文標題 Tangled String for Sequence Visualization as Fruit of Ideas in Innovators Marketplace on Data Jackets,	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Intelligent Decision Technologies	6. 最初と最後の頁 235-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野真理・綾城初穂・能登眸・今泉加奈江	4. 巻 17
2. 論文標題 投影法から見るレジリエンスの多様性 回復への志向性という観点	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 質的心理学研究	6. 最初と最後の頁 43-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野真理	4. 巻 15
2. 論文標題 レジリエンス～多様な回復を尊重する視点～	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 広島大学大学院心理臨床教育研究センタ 紀要	6. 最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Tatsuya Ehira and Rei Kaihara	4. 巻 -
2. 論文標題 Aware Environment for Workshop with Game storming, 2016 IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Proc. IEEE IEEE International Conference on Data Mining Workshops	6. 最初と最後の頁 806 - 812
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) DOI: 10.1109/ICDMW.2016.0119	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noriyuki Kushiro, Takuro Shimizu and Tatsuya Ehira	4. 巻 96
2. 論文標題 Requirements Elicitation with Extended Goal Graph	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Procedia Computer Science	6. 最初と最後の頁 1691-1700
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2016.08.217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami M, Sato A, Matsui S, Goto A, Kumagai A, Tsubokura M, Orita M, Takamura N, Kuroda Y, Ochi S	4. 巻 2_suppl
2. 論文標題 Communicating With Residents About Risks Following the Fukushima Nuclear Accident.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health	6. 最初と最後の頁 74S-89S
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539516681841	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Murakami M, Tsubokura M.	4. 巻 2_suppl
2. 論文標題 Evaluating Risk Communication After the Fukushima Disaster Based on Nudge Theory	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asia Pac J Public Health	6. 最初と最後の頁 193S-200S
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539517691338	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Leppold C, Tsubokura M, Kanazawa Y.	4. 巻 36
2. 論文標題 Parental wishes for continued internal radiation contamination screenings in Fukushima schoolchildren	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 J Radiol Prot	6. 最初と最後の頁 1008-1010
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1088/0952-4746/36/4/1008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Leppold C, Tanimoto T, Tsubokura M	4. 巻 94
2. 論文標題 Public health after a nuclear disaster: beyond radiation risks.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Bull World Health Organ	6. 最初と最後の頁 859-860
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2471/BLT.15.168187	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ochi S, Kato S, Tsubokura M, Leppold C, Kami M, Shibuya K.	4. 巻 26
2. 論文標題 Voice from Fukushima: responsibility of epidemiologists to avoid irrational stigmatisation on children in Fukushima.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Thyroid	6. 最初と最後の頁 1332-1333
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1089/thy.2016.0120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Morita T, Tsubokura M, Furutani T, Nomura S, Ochi S, Leppold C, Takahara K, Shimada Y, Fujioka S, Kami M, Kato S, Oikawa T.	4. 巻 6
2. 論文標題 Impacts of the 2011 Fukushima nuclear accident on emergency medical service times in Soma District, Japan: a retrospective observational study.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 BMJ Open	6. 最初と最後の頁 e013205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/bmjopen-2016-013205	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ochi S, Tsubokura M, Kato S, Iwamoto S, Ogata S, Morita T, Hori A, Oikawa T, Kikuchi A, Watanabe Z, Kanazawa Y, Kumakawa H, Kuma Y, Kumakura T, Inomata Y, Kami M, Shineha R, Saito Y.	4. 巻 11
2. 論文標題 Hospital Staff Shortage after the 2011 Triple Disaster in Fukushima, Japan-An Earthquake, Tsunamis, and Nuclear Power Plant Accident: A Case of the Soso District.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 e0164952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0164952	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 奈良由美子	4. 巻 47
2. 論文標題 生活リスクのパラドックスとガバナンス	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 危険と管理 (日本リスクマネジメント学会)	6. 最初と最後の頁 18-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yumiko NARA & Tomiko SATA	4. 巻 96
2. 論文標題 Construction of the Practical Model and Learning Program for Risk Literacy of Everyday Life: Based on Students' Awareness	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Procedia Computer Science	6. 最初と最後の頁 1258-1266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.procs.2016.08.170	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa	4. 巻 11
2. 論文標題 TEEDA: An Interactive Platform for Matching Data Providers and Users in the Data Marketplace	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Information	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/info11040218	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukio Ohsawa	4. 巻 0
2. 論文標題 COVID-19 Should be Suppressed by Mixed Constraints -- from Simulations on	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 arXiv	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) arXiv:2004.09372	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大澤幸生	4. 巻 111
2. 論文標題 3種類の第二波:いま、何をすべきか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療ガバナンス学会 (MRIC)	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計77件 (うち招待講演 15件 / うち国際学会 32件)

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Data Jackets may Change with Your Drifting Speed in the Real Field
3. 学会等名 2nd International Symposium on Socionetwork Strategies in the Market of Data -Intercultural Collaboration and Life Space Innovation- (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi
2. 発表標題 Variable- and Context-based Knowledge Base for Reducing Belief Drift
3. 学会等名 2nd International Symposium on Socionetwork Strategies in the Market of Data -Intercultural Collaboration and Life Space Innovation- (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石村源生, 早矢仕晃章, 白水督久, 大澤幸生
2. 発表標題 IMDJ(Innovators Marketplace on Data Jackets)を利用した新しい科学技術コミュニケーション手法の提案
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集VI
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大澤幸生, 早矢仕晃章, 石村源生, 近藤早映, 白水督久
2. 発表標題 データジャケット論理に基づくデータ価値連成の可視化
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集VI
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 早矢仕晃章, 石村源生, 白水督久, 大澤幸生
2. 発表標題 創造的データバリューチェーン記述モデルの提案
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集VI
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa, Sae Kondo, Teruaki Hayashi
2. 発表標題 Data Jackets as Communicable Metadata for Potential Innovators?Toward Opening to Social Contexts
3. 学会等名 19th International Conference on Intelligent Systems Design and Applications (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi Nagaya, Kazuko Uno, Hiroyuki A. Torii
2. 発表標題 Tracking Topics of Influential Tweets on Fukushima Disaster Over Long Periods of Time
3. 学会等名 2019 International Conference on Data Mining Workshops (ICDMW) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nao Uehara, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Evaluation of the Similarity of Data Using Data Jackets based on Users' Recognition
3. 学会等名 23rd International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Information Retrieval System and Knowledge Base on Diseases Using Variables and Contexts in the Texts
3. 学会等名 23rd International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2019) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Growth Processes of Variable-and Context-based Data Networks using Data Jackets
3. 学会等名 The 3rd International Workshop on Language Sense on Computer in IJCAI2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keyang Liu, Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi
2. 発表標題 Cooperation Model for Improving Scalability of the Multi-Blockchains System
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Danilo Eidy Miura, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Variables Extraction in Natural (English) Language Through Possessive Relationships
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Qi Wang, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Entropy-based Knowledge Space Visualization for Data-driven Decision Support
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Na Lu, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Learning Sequential Behavior for Next-Item Prediction
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zexuan Wang, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 A Community Sensing Approach for User Identity Linkage
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa, Teruaki Hayashi
2. 発表標題 Data Jackets Evolving and Connecting via History of IMDJ
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Zhu Yingda, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Gradient Descent Optimization by Reinforcement Learning
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 早矢仕晃章, 大澤幸生
2. 発表標題 データプラットフォームにおける異分野データネットワークの成長過程に関する一考察
3. 学会等名 2019年度人工知能学会全国大会 (第33回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久代紀之、妻鹿利宏、西永航志郎、青山裕介
2. 発表標題 リスク制御のための現場知識 – 工事現場監督の視線と発話解析によるメタ・ドメイン知識の抽出
3. 学会等名 情報処理学会研究報告 (Vol.2020-ICS-199 No.1、pp.1?7)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久代紀之、益井彩貴、青山裕介
2. 発表標題 利用者に心のレジリエンスをもたらす情報提示手順?説得力のあるQ&Aシステム実現を目指すシステム設計手法?
3. 学会等名 電子情報通信学会技術研究報告 (Vol.119、No.478、WIT2019-56、pp.97?102)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大澤幸生
2. 発表標題 データは材、コンテキストは財
3. 学会等名 (社)データ流通推進協議会利活用推進委員会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大澤幸生
2. 発表標題 イノベーション・システムとしてのデータ市場
3. 学会等名 日本シミュレーション学会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Why Japan opens AI sessions to the world - from a viewpoint of systems innovation "
3. 学会等名 The 2018 Conf. Technologies and Applications of AI（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Data market as a factory of socionetwork strategies
3. 学会等名 International Symposium on Socionetwork Strategies in the Market of Data（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大澤幸生
2. 発表標題 データ市場におけるビジネス創造
3. 学会等名 マルチメディア推進フォーラム 2018（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Context-based Network Analysis of Structured Knowledge for Data Utilization
3. 学会等名 AAAI Spring symposium 2019 Interpretable AI for Well-being: Understanding Cognitive Bias and Social Embeddedness (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masahiro Senda, Daiji Iwasa, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Data Classification by Reducing Bias of Domain-oriented Knowledge Based on Data Jackets
3. 学会等名 6th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Knowledge Structuring and Network Analysis for Effective Data Exchange and Trading
3. 学会等名 6th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹村航太, 大澤幸生, 早矢仕晃章
2. 発表標題 蓄積エネルギーによる大地震の前兆の分析
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集V
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 奈良岡誠, 早矢仕晃章, 大澤幸生
2. 発表標題 スーパーマーケットにおける戦略立案支援のための時区間分析手法の構築
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集V
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仙田雅大, 早矢仕晃章, 岩佐太路, 大澤幸生
2. 発表標題 データジャケットとWord2vecによるドメイン依存語彙の制約を低減したデータ分類
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集V
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 早矢仕晃章, 安藤有紀, 橘 知志, 赤石 朗, 大澤幸生
2. 発表標題 データ提供者と利用者のマッチングによる邂逅支援ツールTEEDA
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集V
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 早矢仕晃章
2. 発表標題 データジャケットで切り拓く異分野データ連携とイノベーション
3. 学会等名 日本学術振興会マテリアル・インフォマティクスによるものづくりPFの戦略的構築に関する先導的研究開発委員会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 国内平野真理・坪倉正治・瀧田盛仁・早矢仕晃章・久代紀之・大澤幸生
2. 発表標題 信念の漂流尺度作成の試み
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪倉正治
2. 発表標題 東日本大震災・福島第一原発事故後における住民の健康課題
3. 学会等名 第77回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪倉正治
2. 発表標題 東日本大震災・福島第一原発事故後の相馬地方における住民の健康課題 南相馬市立総合病院での内部被ばく検査の取り組みから
3. 学会等名 第57回全国自治体病院学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daiji Iwasa, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Web-based Innovators Marketplace on Data Jackets as Communication Support System
3. 学会等名 5th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks (SPIN2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Retrieval System for Data Utilization Knowledge Integrating Stakeholders' Interest
3. 学会等名 AAAI Spring symposium 2018 Beyond Machine Intelligence: Understanding Cognitive Bias and Humanity for Well-being AI (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 久代紀之、井福政文、青山裕介
2. 発表標題 要件定義ツール(拡張ゴールグラフ)に基づくステークホルダ合意形成のためのデータ選定(予備実験)
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会(AI): データ市場特集IV
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 久代紀之、藤田裕司、村上響一、青山祐介
2. 発表標題 リスク認知における知ってる/知らない知識の表出化と可視化
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会(AI): データ市場特集IV
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 早矢仕晃章, 大澤幸生
2. 発表標題 データ市場におけるデータのネットワークと関係性の分析: ;データの属性と繋がりからの考察
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会(AI): データ市場特集IV
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩佐太路, 早矢仕晃章, 大澤幸生
2. 発表標題 Web 版 innovators marketplace on data jackets を用いたデータ利活用法に関するコミュニケーション支援
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集IV
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹村航太, 早矢仕晃章, 大澤幸生, 相原大介, 須川敦史
2. 発表標題 サッカー映像を用いた指導者支援システムと可視化
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集IV
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keyang Liu, Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 A Data Market Based on Blockchain for Academia
3. 学会等名 電子情報通信学会 人工知能と知識処理研究会 (AI) : データ市場特集IV
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Looking back at MoDATs since 2013, Chance Discovery since 2000
3. 学会等名 IEEE-ICDM Workshops 2017, Creating Tools, Data, and Sensors from the Social Intelligence (MoDAT) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Matrix-based Method for Inferring Variable Labels Using Outlines of Data in Data Jackets
3. 学会等名 The Pacific-Asia Conference on Knowledge Discovery and Data Mining 2017 (PAKDD2017) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木村亮太, 早矢仕晃章, 大澤幸生
2. 発表標題 データ活用シナリオ生成における思考順序制約の影響に関する一考察
3. 学会等名 2017年度人工知能学会全国大会 (第31回)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Externalization of Variable Labels for Understanding Belief Drift Considering Vocabulary Gaps Caused by Different Background Knowledge
3. 学会等名 2nd International Workshop on Language Sense on Computer in IJCAIW 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Preliminary Case Study on Value Determination of Datasets and Cross-disciplinary Data Collaboration Using Data Jackets
3. 学会等名 21st International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES2017)France2017年9月 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 VARIABLE QUEST: Network Visualization of Variable Labels Unifying Co-occurrence Graphs
3. 学会等名 IEEE-ICDM Workshops 2017, Creating Tools, Data, and Sensors from the Social Intelligence (MoDAT) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi
2. 発表標題 Knowledge Structuring for Cross-discipline Data Exchange and Utilization
3. 学会等名 5th International Conference on Signal Processing and Integrated Networks (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 早矢仕晃章
2. 発表標題 データジャケットに見るデータカタログの活用方法
3. 学会等名 データ流通推進協議会 技術基準検討委員会(2018年2月19日) (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Yuji Fujita and Yusuke Aoyama
2. 発表標題 Extracting Field Oversees' Features in Risk Recognition from Data of Eyes and Utterances
3. 学会等名 2017 IEEE International Conference on Data Mining Workshop (ICDMW)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Yusuke Oniduka and Yoichi Sakurai
2. 発表標題 Initial Practice of Telematics-Based Prognostics for Commercial Vehicles Analysis Tool for Building Faults Progress Model for Trucks on Telematics Data
3. 学会等名 the 21st International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems:
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Innovators Marketplace on Data Jackets for Data Driven Innovation
3. 学会等名 International Conference on Innovation & Knowledge Management (iKM2017) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Market of Data for Communications toward Innovations
3. 学会等名 Lectures on Systems Science (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大澤 幸生
2. 発表標題 チャンス発見学：医学研究の発想をいかに捉えてチャンスに活かすか
3. 学会等名 New Insight Crosstalk Meeting(NICM) 2016 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大澤 幸生
2. 発表標題 データ市場が人とAIを結ぶ
3. 学会等名 第11回医療改革推進協議会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大澤 幸生
2. 発表標題 サービスインテリジェンス - 多様なデータから莫大な価値を創出する創造的コミュニケーションの場を創出
3. 学会等名 産総研人工知能研究センター 第3回AIワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 大澤幸生
2. 発表標題 データ市場における第三種の特徴量獲得
3. 学会等名 電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 江本 守・大澤幸生
2. 発表標題 トピックモデルを用いた顧客行動分析と商品DNA作成手法の提案
3. 学会等名 電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉鷹伸太郎・大澤幸生
2. 発表標題 時系列データ可視化によるテニス選手の戦略分析
3. 学会等名 電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Jianshi Wang, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Evaluating model of traffic accident rate on urban data
3. 学会等名 11th International Symposium Advances in Artificial Intelligence and Applications (AAIA'16) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Rui Yang and Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Visualization Method Based o Contour Map
3. 学会等名 The 4th Workshop on Designing the Market of Data (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Teruaki Hayashi, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Preliminary Case Study about Analysis Scenarios and Actual Data Analysis in the Market of Data
3. 学会等名 2nd European Workshop on Chance Discovery and Data Synthesis (EWCDDS16) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Norisada Masui, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Visualization of Superficial Similarities between Data Jackets for Aiding Creativity on Innovators Marketplace on Data Jackets
3. 学会等名 20th International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akira Kasuga, Yukio Ohsawa
2. 発表標題 Non-Conformity Detection in High-Dimensional Time Series of Stock Market Data
3. 学会等名 The 29th Int'l Conf. IEA/AIE (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hirano, M
2. 発表標題 Designing Information and Communication Technology Applications to Promote Resilience in Japan
3. 学会等名 The 8th European Conference on Positive Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ogura, K., Hirano, M., Sakamoto, D., Iwano, Y., Yamashita, Y., Tsuchida, T., Suganuma, S., & Shimoyama, H.
2. 発表標題 Difference of emotional self-regulation behavior by mental state.
3. 学会等名 The 31st International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Kazuki Tomonaga, Yuki Ogawa and Toshiyasu Higuma
2. 発表標題 Algorithm Design for Life Event Sensor on Field Data
3. 学会等名 IEEE International Conference on Consumer Electronics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Takahiro Kondo, Yuki Ogawa and Toshiyasu Higuma
2. 発表標題 Home Energy Management by Handling Life Even; Can residents manage energy by knowing their life event?
3. 学会等名 IEEE International Conference on Consumer Electronics (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Takuro Shimizu and Tatsuya Ehira:
2. 発表標題 Requirements Elicitation with Extended Goal Graph
3. 学会等名 International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Noriyuki Kushiro, Tatsuya Ehira and Rei Kaihara
2. 発表標題 Aware Environment for Workshop with Game storming
3. 学会等名 The 4th Workshop on Designing the Market of Data (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 久代紀之、福田亜美、清水拓朗、妻鹿利宏
2. 発表標題 拡張ゴールグラフと異種混合学習技術を用いたフィールドデータからのビル電力需要モデルの構築
3. 学会等名 電子情報通信学会人工知能と知識処理研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 奈良由美子
2. 発表標題 リスクマネジメントの横断性と統合性
3. 学会等名 日本リスクマネジメント学会 第40回全国大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumiko NARA
2. 発表標題 Disasters and Transformation of Daily Life: Implications for Issues in Risk Management
3. 学会等名 2nd European Workshop on Chance Discovery and Data Synthesis (EWCDDS) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yumiko NARA, Tomiko SATA
2. 発表標題 Construction of the Practical Model and Learning Program for Risk Literacy of Everyday Life: Based on Students' Awareness
3. 学会等名 The 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems (KES2016)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Hirano, M.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 249
3. 書名 Chapter 12: Individual Differences in Psychological Resilience. in Nara, Y. & Inamura, T. (Eds) Resilience and Human History: Multidisciplinary Approaches and Challenges for a Sustainable Future.	

1. 著者名 平野真理	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 17
3. 書名 第12章 心のレジリエンス (奈良由美子・稲村哲也 (編著) レジリエンスの諸相 人類史的視点からの挑戦)	

1. 著者名 大澤幸生 (編著), 早矢仕晃章, 秋元正博, 久代紀之, 中村潤, 寺本正彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 データ市場	5. 総ページ数 304
3. 書名 近代科学社	

1. 著者名 奈良由美子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同文館	5. 総ページ数 213
3. 書名 リスクマネジメントの本質 第8章 「家庭危機管理」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坪倉 正治 (Tsubokura Masaharu) (20527741)	星槎大学・共生科学部・客員研究員 (30124)	
研究分担者	瀧田 盛仁 (Takita Morihito) (20760292)	星槎大学・教育学研究科・客員研究員 (30124)	
研究分担者	久代 紀之 (Kushiro Noriyuki) (50630886)	九州工業大学・大学院情報工学研究院・教授 (17104)	
研究分担者	平野 真理 (Hirano Mari) (50707411)	東京家政大学・人文学部・講師 (32647)	
研究分担者	早矢仕 晃章 (Hayashi Teruaki) (80806969)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・助教 (12601)	
研究分担者	奈良 由美子 (Nara Yumiko) (80294180)	放送大学・教養学部・教授 (32508)	
研究分担者	上 昌広 (Kami Masahiro) (50422423)	星槎大学・共生科学部・客員教授 (30124)	30万円を分担者・瀧田に移動